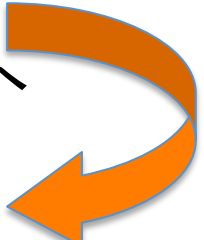


# 「研究」(research)はようになるか？

- 資金助成
    - 簡単には減らない(科学による地球的問題の解決)
    - とくに、BRICsでさらに増加するだろう
    - したがって、成果物の生産流通の規模は拡大する
  - 個人の創造性から「社会的、(経済的?)有用性」へ
    - 知識基盤社会の一側面
    - しかし、「勉強」する動機付けは持続可能か？
  - 研究機関と高等教育機関
    - 大学で研究が行なわれることの必然性はどこにあるのか
  - 巨大科学(Big Science)から「グローバル科学」へ
    - 国家目的による正当化から人類目的の正当化へ
    - 国境を越えた協力
    - 単純な競争が無意味になる
  - 計算科学・データ中心科学への移行
    - これまでの「実験室実験」からリアルワールドのデータに基づく研究へ
    - データ再利用
    - 論文では表現できない(シミュレーション、(検索可能)データベースなど)
  - 問題解決からスナップショットへ
    - 研究と開発、開発と実用との相互浸透
    - 終わらない「研究」
- 

# 「研究者」はどうか

- 誰が「研究者」であり続けるのか
  - 研究者の資質
  - 「知的好奇心」「身過ぎ世過ぎ」
  - テニユア制度とアラバマ大学乱射事件
- {大学教員}  $\subseteq$  {研究者}
  - 研究者としての評価  $\neq$  研究者としての評価？
  - 論文(だけ)で個人の評価は可能か
- 評価
  - 発表論文による評価  $\Rightarrow$  (論文を出しにくいテーマ、単著論文不可能)  $\Rightarrow$  論文の評価能力の相対化
- 倫理問題の顕在化  $\Rightarrow$  透明化への要求
  - 利益相反(製薬会社と治験、資源会社と調査等々)
  - 研究方法の正当性(データ捏造 $\Rightarrow$ データ公開、正当な手順の標準化 $\Rightarrow$ プロトコル公開)